

聖書箇所：ルカの福音書9章18～27節

説教題：あなたはだれですか？

1 だれにも話さないように

きょうは二つのことを考えていきます。一つはなぜイエスは「だれにも話さないように」と命じられたのか。そしてもう一つは、23節「だれでもわたしについて来たいと思うなら」の意味についてです。

前回は、男だけでおよそ五千人の群衆にイエスがパンを分け与えたところを見て参りました。弟子たちはパンを配りながら、イエスが持つておられる力の大きさに驚き、イエスに従ってきたのは間違っていないかと思えます。ますます確信しただろうと思います。

そんなときイエスは弟子たちに尋ねます。「では、あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」これに対し、ペテロがまっさきに答えます。「神のキリストです。」

聖書の欄外に、キリストとは「メシヤ」のことですと説明があります。メシヤとは旧約聖書のなかで使われる言葉で、油を注がれた者という意味があります。もともとは大切な地位に就くときに行われる儀式の意味であったようですが、後に救い主を指してメシヤと呼ぶようになります。このメシヤをギリシャ語に訳すとキリストということになります。ですからイエス・キリストとは油注がれたイエス。救い主イエス。そのような意味です。

そうしますとペテロは、こう言ったことになります。「あなたは救い主イエスです。」ペテロが答えたことは間違っていたのでしょうか。いいえ、まったく正しい。しかし、イ

エスはなぜかこのことをだれにも話さないようにと、彼らを戒めて命じられました。正しいことを言ったはずなのに、なぜ言っはいけないと命じられたのでしょうか。

2 「神のキリスト」と「人の子」

(1) 神のキリスト

イエスは、22節でその理由としてこのようなことを語ります。「人の子は、必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、殺され、そして三日目によみがえられねばならないのです。」

イエスをご自分のことをいつも「人の子」と言います。これに対しペテロは、「あなたは神のキリストです」と答えています。イエスが「だれにも話さないように」と厳しく命じた理由を考える鍵がこの「人の子」にあります。

ペテロは湖で漁師として働いていたとき、イエスから「これから後、あなたは人間をとるようになるのです」と言われ、何もかも捨ててイエスの弟子となった人です。最初はイエスとは何者なのか、ほとんどわかりませんでした。でもこの方が語られるみことばを聞き、この方がなされるみわざを見ていったとき、イエスこそ神から遣わされた救い主であると確信していきました。そこまではよいのですが、問題は「救い主」の中身です。弟子たちは思っています。このイエスはやがて大きな力を発揮してローマ帝国を打ち倒し、イスラエルを政治的に救ってくれる人に違い

ない。イエスが王となった暁には、自分こそイエスの側近となり、大臣の座に就く。弟子たちはそんな野望を抱いくようになります。

ペテロが「神のキリストです」と答えたとき、彼の頭の中にあつたのは、自分の立身出世のためのキリストです。あるいは自分の幸福をこの世で実現してくれる、バラ色のキリストと言ってもよいでしょう。なにしろ、悪霊を追い出す力や、病をいやす権威を持っておられます。そしてつい先ほどは、一万人の人たちの腹を満たすパンさえ用意するのを見たばかりです。漫画のドラエモンは、いつもだだをこねるのびた君の願いを聞いて、便利な道具をポケットから取り出し、たちまちにして願いをかなえていきます。ペテロの信仰はその程度です。ペテロが「神のキリスト」と言いましたが、「あなたは、私たちの願いをなんでもかなえてくださる便利な救い主です」と言ったのとほとんど同じでした。

(2) 人の子

イエスはペテロの告白を聞き、弟子たちに対しこう言われます。

21 節、「このことをだれにも話さないようにと、彼らを戒めて命じられた。」このなかに、「戒めて」ということばがあります。「しかりつけて」とも訳してよいことばです。イエスは普段は穏やかな方ではあるのですが、なぜかこの場面だけはかなり厳しい口調です。

なぜでしょう。ペテロが告白したとおりに、イエスは、確かに神のキリスト救い主なのですが、ペテロの考える便利なキリストとはまったく違うからです。イエスがなさろうとしていることはこのことでした。22 節。「人の子は、必ず多くの苦しみを受け、長老、祭

司長、律法学者たちに捨てられ、殺され、そして三日目によみがえらねばならないのです。」

弟子たちはこの世の幸せを求めようとしています。イエスを利用して自分の願いをかなえさせ、上へ上へと向かおうとしていました。それに対し、イエスが向かおうとされていたのはどこか。弟子たちのそれとは正反対です。人間の常識から考えれば、どう見てもこの世のみじめな敗北です。下へ下へと降る歩みです。

このことが起こるのは、今日の箇所から見ればまだ少し先のことです。十字架の苦しみを通らないうちは、「神のキリスト」と呼ばれる資格はありません。だから自分の身分はこの時点でまだ「人の子」なのです。「あなたこそ神のキリストです」と呼ばれるためには、十字架の苦しみを通らなければならない。イエスはそのように考えておられます。

弟子たちを厳しくしかりつけるイエスを見て、戸惑ったかもしれません。でもよく見るとこのような厳しい態度は、すべて私たちのために苦しみを引き受けようとする思いの強さから出たものだったのです。

3 わたしについて来たいと思うなら

(1) 自分を捨て

さて次に 23 節のみことばに目を留めていきます。皆さんも非常に気になるみことばであろうと思います。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」

どうでしょう。簡単でしょうか。いや、簡単じゃないから困っています。そもそも自分を捨てるとは何をすることか。そこからして

わかりません。日本語聖書では「自分を捨て」と訳していますが、「自分を否定し」とも訳すことができます。英語聖書ではそのようになっています。

この箇所はいくつかの解釈があると思われます。一つには、このような命令はだれも成し遂げることができない。ただ、イエス・キリストだけがなされる。ご自分のことを指していると考えられることも可能でしょう。

あるいはこれとは別にこんなふうに解釈することもあります。「イエスにしたがっていきたいと思う者は、自分の欲を捨て、自分を無にして、神のみこころだけを願って歩んでいくのです。」

しかし、どうですか。みんな、こんなことができますか。私はできません。もし本当にそうだというなら、とても窮屈な人生にも思えてしまいます。

いつも言いますが、イエスが私たちにできないことを命じるはずはありません。ここでも、必ずできる事だけを語っているはずです。それも簡単にできることをです。どうやったらそんなことができるのでしょうか。

ペテロを見てください。イエスは問いかけました。「では、あなたがたは、わたしをだれたと言いますか。」ペテロは答えました。丁寧に訳すようになります。「私は、あなたは神のキリストだと言います。」

さてそのペテロはどうなりましたか。イエスが裁判にかけられているあの庭で、イエスを三度否定します。22章57節「ところが、ペテロはそれを打ち消して、「いいえ、私はあの人を知りません」と言った。」

「打ち消して」がこの「捨てる」と同じことばです。

(2) 日々自分の十字架を負い

「あなたこそ神のキリストです」と自信をもってほかの弟子たちに先んじて宣言したペテロ。このことばをペテロは自分で否定してしまいます。どうですか。自分を否定することは難しいことですか。実に簡単でしょう。それとも、あまりにも意外な説明なので戸惑っておられるのでしょうか。

イエスを三度否定した直後に、鶏の聲が聞こえてきます。ペテロは庭の外に出て激しく泣いたことは皆さんもおご存じです。

ペテロはその後どうなったのでしょうか。弟子であることを辞め、漁師の生活に戻ります。けれども自分がイエスを否定してしまったことを忘れることはできません。何度も思い出し、悔やんでいったはずです。

よみがえられたイエスは、あるとき湖の岸边に立たれます。ペテロはそれに気がつきません。あそこに立っているのはイエスであることがわかったとき、あまりの恥ずかしさに湖に飛び込んでしまいます。合わす顔がありません。なぜですか。自分が犯した罪のことを苦しんでいたからです。そのようにしてペテロは、日々自分の十字架を負っていたのです。

(3) そしてわたしについて来なさい

そんなペテロをイエスはどうされましたか。食べるものまで用意してペテロが来るのを待っていました。そして言われます。「わたしの羊を飼いなさい。そしてわたしに従いなさい。」(ヨハネ21章)

私たちは、ペテロのようにあからさまにイエスを否定することはないかもしれませんが、でも、かつてイエスを知らなかったときはどうでしたか。この世界を造られた唯一の神を知りませんでした。神を神とも思わず生きて

いました。イエスを否定して生きていました。そんな私たちは恵みによって救われました。できればイエスに従いたいとは思いますが、できない自分であることを認めざるを得ません。主の前にはごめんなさいと謝るしかない。そんなあわれな者です。自分の十字架であるのかはわからないけれど、とにかくイエスに従うことのできない悲しみと苦しみが私たちのうちにあります。

主はそんな私たちをどうされるのでしょうか。私たちのために苦しみを受けられます。私たちのために捨てられていきます。私たちのために十字架におかかりになり、殺されていきます。すべて私たちを救うためです。

正しいことをしないと救われれないと言っているわけではありません。正しいことができない自分を悲しんでいます。それが今の私たちです。また失敗してしまいました。できなかった。そこで苦しんでいるのが私たちです。

そんな私たち、イエスについて行く資格などありません。けれどもイエスはそんな私たちのことを喜んで招いてくださる。そのような約束です。

主よ。どうかこんな者をあわれんでください。あなたに従うことが難しい者をかえりみてくださいますように。